



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

ユニバーサルデザインの考え方

障がい者歯科 科長 船津 敬弘

先日待合で、4歳の患者さんが、静かに座ってタブレットを一生懸命指でなぞって、保存してあった写真を次々と見ていました。「こんな小さなお子さんでも使えるタブレットってすごいな！」と感心したことを思い出します。

皆さんはユニバーサルデザインという言葉をお聞きになったことがあるでしょう。ユニバーサルデザインは1980年代、自身も車椅子を利用していたノースカロライナ大学のロナルド・メイス教授によって、高齢者や障がい者があらゆる分野で差別を受けないように、また、不便さを取り除くため、バリアフリーの概念に代わって提唱されました。バリアフリーは「すでにある障壁を取り除き、高齢者や障害者が使うための設計」という発想ですが、「はじめから障壁を作らない、今までよりできる限り多くの人にとって利用しやすいものを設計する」がユニバーサルデザインです。タブレットやスマートフォンのタッチパネルも従来のパソコンのキーボードに代わる入力装置としてユニバーサルデザインの考え方に基づくものと言えます。

ユニバーサルデザインには7原則というものがあり、①公平性：公平に誰でも利用できる ②自由度：柔軟性に富む ③単純性：簡単で直感的に利用できる ④明確さ：情報が簡単に説明されている ⑤安全性：ミスが危険につながらない ⑥持続性：長時間しても疲れにくく、身体的な負担が少ない ⑦空間性：使う人の大きさや姿勢、動きに関係なく、誰にでも使える大きさ、広さがある、というものです。

身の回りにあるユニバーサルデザインには次のようなものがあります。シャンプーのポンプ部分の

突起(視覚障害者だけでなく、目を閉じていてもリンスと区別できる)。電気ポットのマグネット付コンセント(コードを引っ掛けてもすぐに外れるため安全)。センサー式の蛇口(手の不自由な方や握力が弱い人も利用できる)。自動ドア(車椅子を使用している人や両手に荷物を持っている人、子どもを抱えている人などすべての人に便利)。



本院1階のスペシャルニーズ歯科センター(障がい者歯科)はユニバーサルデザイン的な考え方で診療室が設計されています。一般の方から車椅子の方まで、診療台に入りやすいよう空間性に配慮しています。診療台は通常のものより幅が広く、横を向かなくてもうがいができる排唾バキュームを備えるなど皆さんに使いやすくなっています。対象者も歯科が苦手と感じている方から車椅子の方まで、お子さまからご高齢の方まで年齢も関係なく、障がいのある方を含めてユニバーサルデザインの公平性、自由度、安全性の概念と共通した診療を行っております。ユニバーサルデザインの「今までよりできる限り多くの人にとって利用しやすい」という考え方は医療にとっても非常に大切なテーマといえます。そのような診療体制をこれからも提供してまいりますので、スペシャルニーズ歯科センター(障がい者歯科)ならびに昭和大学歯科病院をこれからも宜しく願い申し上げます。

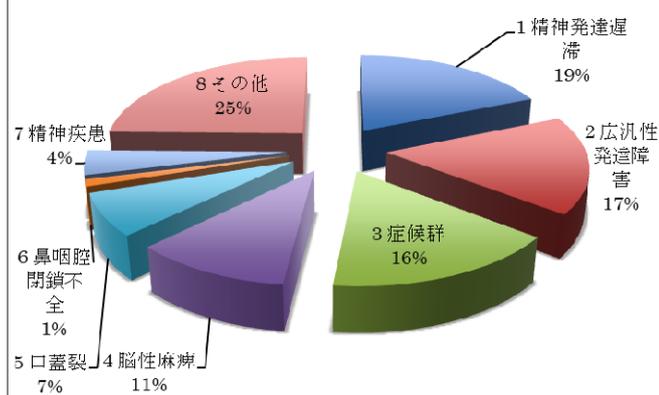
スペシャルニーズ歯科センター(障がい者歯科) 紹介

スペシャルニーズ歯科センター (障がい者歯科)

Center of Special Needs Dentistry
(Clinic for Persons with Disorders)

2012年4月にスペシャルニーズ歯科センター(障がい者歯科)開設後3年が経過致しました。当センターには0歳児からご高齢の方まで幅広い年齢層の方が来院されます。知的障がい、広汎性発達障がい(自閉症スペクトラム障害)、脳性麻痺、筋ジストロフィー、脳血管障がい、先天異常や染色体異常、統合失調症、心臓病、脳卒中、認知症、いろいろな症候群、歯科恐怖症、異常絞扼反射(嘔吐反射)など疾患も様々です。

平成26年度初診患者の内訳



そのような患者さんとご家族や支援をしている方々共に快く、安全に歯科診療を受けて頂けるように一人一人の診療時間をしっかりと確保して診療を行っています。また、H26年度外来(新患)患者数は841人、(再来)患者数4,428人で、そのなかでも歯科治療への恐怖心が強い方には、歯科麻酔科医師のもと恐怖心を和らげ眠ったような状態で診療できる静脈内鎮静法は(96件)や、治療が必要な歯の数が多い患者さんには日帰りでの全身麻酔下(76件)で行うなど歯科治療時のストレスを最小限にする事を常に心がけております。



個室ユニット:個室静脈内麻酔下にてストレスを極力抑えて、全身管理を行いながら安全に歯科治療が行えます。

全身的な疾患があり歯科治療が出来るかどうか心配な方や歯科治療が怖くて、逃げ出してしまうたり、大きな声を出してしまったりする。怖くて暴れてしまう。歯科治療の器具が口の中に入ると吐き気をもよおしてしまう。歯ブラシが全くできない(口の中を見ることもできない)など、通常の歯科治療を受けること自体が難しくお困りの方がいらっしゃいましたら、必ず患者さんとそのご家族の方にご満足頂けるように誠心誠意、楽しく診療をしておりますので、どうぞお気軽に昭和大学歯学部スペシャルニーズ歯科センター(障がい者歯科)を訪ねて頂ければと存じます。

障がい者歯科 医局長 浅川 剛吉



現在のスペシャルニーズ口腔医学講座障害者歯科学部門医局員

私の家族や親戚には医療の仕事をしている方が全くおりませんでした。小さな頃から将来は医療の仕事をしたいという思いはあり、躊躇なく歯科医への道を選びました。大学卒業後は大学院へ進み、研究内容から顎関節やブラキシズムといった顎口腔機能に関するより高度な知識を学ぶことが出来ました。歯科医師となり12年が経ちましたが、現在の自分の治療スタイルになるまでに色々な変化がありました。大学卒直後は少しでも早くプロになりたいとの思いから、高い技術力や派手な治療ばかりに目が行き、日々そのことだけを考えていました。そういった中で、自分が行った治療経過があまり良くないという現実的な問題に気が付くまでにはさほど時間はかからなかったように思います。歯科医療とは経過が悪く、時間がたてば再治療が必要なものなのか？それとも歯科治療は確立されていますが自分の能力が低だけなのか？今後どうすれば解決できるのか？

私は補綴歯科に所属しております。大学院当時の上司から毎日のようにしつこく言われ続けたのは、あいさつ、患者さんへのエプロンのかけ方、診療アシストのやり方、清潔域不潔域への器具の配慮、出入りする際の患者の導線など、今更と思われる“当たり前のこと”でした。しかし、腐らずにこれらのことを意識し、徹底して行うようにすると患者さんとのコミュニケーションにプラスに働くことが多くなり、真の訴えを聞き出すことができ、だんだんと治療へ生かせることが多くなったことを覚えています。“歯科医師は歯の修理職人”と言われることがあるように、歯科治療は病気の診断や治療といったことよりも、ある行為を行うために、どんな器械・器具・材料をどう使うのかといった職人的知識へ頭が偏りがちになる瞬間が多くあると思います。それも非常に大切なことではありますが、本来医療とは患者さんの健康回復・維持・増進をはかることを目的としています。患者さんの機能回復を願い、

不具合を“直す”ことが修理職人であり、患者さんの健康回復を願い、病気を“治す”ことが医師の仕事です。当時の私は、“修理を主体とした歯科治療”の中だけで病気を治そうとしていました。それが治療経過が悪く、思うようにいかなかった原因のひとつであったのだと思います。

現在では、“当たり前のこと”を当たり前のようにすることこそが本当にプロに必要な条件だと確信しており、その基礎があってこそ初めて自分の歯科医師としての知識と技術が治療へ活かされるのだと信じています。診療前に必ず復誦する高校の恩師から頂いた次の言葉があります「歯は口を作り、口は表情を作る、表情は性格を作り、性格は人生を作る。すなわち歯1本の治療でもその人の人生かかっているのだ」。現在の自分もまだまだまだまだ勉強中の身であります。しかし今では、歯科医師とは自分で誇りをもって全うできる素晴らしい職業だと確信しています。今後もこの今の気持ちを忘れずに、アイスホッケー部で培った体力を持って、常に本質を見極められる目を養い、一人でも多くの患者さんの健康回復・維持・増進を支えていく歯科医師でありたいと願います。



ここに写真に関してのタイトルが卒業後もアイスホッケー部 医歯薬OBチーム(Mao's)で汗を流して精神を鍛えています！

患者さん対象 インプラント治療に関する説明会



昭和大学歯科病院インプラントセンター
センター長 尾関 雅彦 教授

会場：昭和大学歯科病院 6階 第2臨床講堂
参加費：無料 当日直接会場へお越しください。

●第43回●
平成27年11月17日(火)
12時00分～13時30分

●第44回●
平成27年12月15日(火)
12時00分～13時30分



インプラント治療について、
わかりやすく御説明いたします。
どうぞお気軽にご参加ください。

※当日は病院だよりへの掲載、インターネット上での公開のため、イベントの写真撮影、ビデオ撮影を行います。
掲載・公開を希望されない方は、イベント当日に直接スタッフにご相談ください。
ただし、病院だよりへの掲載の場合には掲載後の対応はできませんのでご了承ください。

お問い合わせ 昭和大学歯科病院事務課管理係

住所：東京都大田区北千束2-1-1
TEL：03-3787-1151(代)

編集後記

はやいもので10月も残すところ数日となり、紅葉もあちこちで見られるようになりました。日本は四季それぞれで息を呑むような美しい自然が見られる豊かな国ですが、来年こそは天変地異が少ない年となることを祈ります。

さて、息を呑むといえば皆様、食べ物、飲み物の呑み込みは大丈夫ですか？75歳以上になると嚥下障害を有する人が急に増えます。正月にはお餅の窒息事故が毎年報道されますが、年間に食べ物で起こる窒息事故の氷山の一角に過ぎません。ご心配の方はどうぞ当病院の口腔リハビリテーション科にお気軽にお越し下さい。(K.T)

